希望のひかり 第57回

ILC（国際リニアコライダー）計画の各種最新情報をお届けします

議員連盟が実現へ向け要望

7月25日、市議会ILC誘致推進議員連盟（渡辺忠会長）を中心として、金ケ崎町、一関市、平泉町、大船渡市、陸前高田市、住田町の議会関係者が、超党派の国会議員連盟である、リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟の河村建夫会長などにILC早期実現を要望しました。ILC建設候補地周辺の議会関係者が連名で要望するのは初の試みであり、地元の結束が高く評価されました。

審議の場は日本学術会議へ

ILCの科学的意義や建設コストなどを検証していた有識者会議が、7月に議論の取りまとめを行いました。今後は日本学術会議（※）での審議・提言を経て政府が誘致に対する最終判断をするものとみられています。

※日本学術会議…約84万人の国内科学者を代表する機関であり、科学者の意見を政策に反映させるため、政府に対する政策提言などを行っている。優れた研究・業績がある科学者の中から任命される、210人の会員と約2千人の連携会員により構成される。

国の検討経過と今後の見通し	平成25年5月	文部科学省は「ＩＬＣ計画に関する学術的見地からの検討」について日本学術会議に審議を求めた →日本学術会議で審議
	平成25年9月	日本学術会議は「ＩＬＣの学術的な意義は認めるものの、費用の捻出、実験参加国の費用負担、研究者人員確保などの見通しが不透明であり、現時点で日本が誘致表明するのは時期尚早」と提言した
	平成26年5月	文部科学省は日本学術会議からの提言を専門的見地から議論するため、「国際リニアコライダー（ＩＬＣ）に関する有識者会議」を設置した →有識者会議で検討
	平成30年7月	有識者会議の議論が取りまとめられた
	平成30年8月以降	日本学術会議で審議後、政府が最終判断する見込み

ＩＬＣ実現に向けた署名が１万人を突破しました！

いよいよ大詰めの段階を迎えたＩＬＣ誘致。政府の誘致判断を後押しするため、市ＩＬＣ推進連絡協議会では、**市民総参加の誘致運動**として、「ＩＬＣサポーターズ」６万人登録署名運動を展開しています。地区振興会や市内事業者の皆さんのご協力により、署名数が７月30日時点で１万人を超えました！　ＩＬＣ実現のため、さらなる皆さんのご協力をお願いします！

対象　ＩＬＣの実現を応援する人

参加方法　７月に全戸配布したサポーターズ宣言用紙に氏名を記載のうえ、ＩＬＣ推進室に送付（メール・ＦＡＸ・郵送・持参）

その他　ＩＬＣサポーターズ登録は無料です

また、署名運動と平行して、ＳＮＳによる参加も大募集します！

参加方法

①ハッシュタグ「＃ＩＬＣサポーターズ」をつけてＳＮＳで応援メッセージを投稿

②ＳＮＳでＩＬＣサポーターズ公式アカウントを「いいね」する

③ＩＬＣサポーターズ公式サイト専用フォームから応援メッセージを送信

ＩＬＣサポーターズ公式サイトＱＲコード ➡

７月６日、ＩＬＣ講演会で行われた500人による「ＩＬＣサポーターズ宣言」

「We want the ILC!!」

７月17日、水沢小学校５年生117人による「ＩＬＣサポーターズ宣言」（ＩＬＣ出前授業後に撮影）

「We love the ILC!!」

本コーナーでは、ＩＬＣ計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽にご質問ください。

■問い合わせ＝本庁ＩＬＣ推進室（内線４４２、FAX㉒２５３３、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）

せいかつ百科

食べられるのにもったいない！　食品ロスを減らしましょう

８月は、気温が高く食べ物が早く傷んだり、また、お盆を迎えての帰省、地域の祭りや運動会などの行事が行われ、家庭や地域での会食も多くなる時期です。今回は、ごみの減量化に向けての流行キーワード「食品ロス」の削減と「30・10運動」を紹介します。

◉食品ロスの現状◉

「食品ロス」とは、本来は食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。最新の資料によると、全国では１年間に646万㌧もの食品ロスがあり、そのうち家庭からは、約45%にあたる289万㌧が捨てられています。これは、１人当たり約51㌔にもなります。皆さんのお宅でも冷蔵庫に入れていた食品が「消費期限が過ぎてしまった！」ということはありませんか。

◉食品ロスの原因と削減ポイント◉

家庭での食品ロスは、①直接廃棄、②食べ残し、③過剰除去の大きく３つに分けられます。

①直接廃棄の主な原因は「買い過ぎ」

- 買い物に出かける前に冷蔵庫の在庫を確認！
- 食べ切れる分量だけ買うこと！

②食べ残しの原因は「作り過ぎ」

- 家族の人数に見合った分量を作る
- 傷みの早い時期の残った料理は、きちんと冷蔵庫や冷凍庫に入れること

③過剰除去の原因は「調理の知識不足」

- 調理の工夫や調理器具を見直して、食材から除去する部分を減らす（例:野菜や果物の皮の薄むき）

◉ 30・10運動の推奨◉

会食の「食べ残し」が食品ロスの大きな原因のひとつです。これを削減するための「30・10運動」が全国的に広がっています。

30・10運動とは、会食時において

★乾杯後の30分は席を立たずに料理を堪能する

★閉会の10分前には席に戻り料理を食べ切る

これらを実践する運動です。おいしく料理をいただき、食品ロスの削減に取り組みましょう！

■問い合わせ＝本庁生活環境課生活衛生係（内線215）、各総合支所市民環境課

おうしゅう羅針盤

暑い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしですか。

カヌージャパンカップが７月28日・29日の２日間、奥州いさわカヌー競技場で開催されました。平昌パラリンピック金メダリストの成田緑夢選手や、地元からは岩渕政浩選手が出場。地域おこし協力隊の藤野浩太選手は５位と健闘しました。大会成功にご尽力いただいた関係者の皆さんに、心より感謝申し上げます。この競技場は、東京五輪の事前トレーニングキャンプ地として立候補しています。キャンプ地決定に向けて気運を盛り上げてまいります。

今年の水沢佐倉河の田んぼアートの図柄は、米大リーグで活躍している大谷翔平選手です。水田にはバットを振り抜く姿と、ボールを投げる姿の二刀流が描かれていますので、ぜひご覧ください。

大谷選手の背番号17にちなみ、毎月17日を応援デーとして、市職員有志が自費購入したＴシャツを着て応援する取り組みが始まっています。私もＴシャツを着て応援しています。応援する取り組みが市全体に広がり、大谷選手の力になることを願います。

先月、達増知事と共に台湾を訪問し、台湾の旅行会社や航空会社、政府関係者らに、本市への誘客の協力を求めてまいりました。８月から格安航空会社タイガーエア台湾の運行する花巻—台北間が定期便化され、交流がさらに活発になっています。本市の魅力を積極的に発信し、誘客に結びつけてまいります。

ＩＬＣ講演会が開催され、東北ＩＬＣ準備室長の鈴木厚人県立大学長から、政府の判断が大詰めを迎えている現状を伺いました。講演会後に参加者全員で「ＩＬＣサポーターズ」宣言を高らかに行い、早期実現に向けさらなる盛り上げと結束を強めました。

奥州市長　小沢昌記